

令和 8 年度 学力向上全体計画

学校名	墨田区立文花中学校
校長名	遠藤 博則

1 本校の学力に関する状況

(1) 墨田区学習状況調査結果から

成 果	課 題
・ 1 年生 全教科で全国値を上回った。 ・ 2 年生 国語・数学・理科・英語で全国値を上回り、数学は 5p 以上上回った。 ・ 3 年生 国語・社会・数学・英語で全国値を上回り、数学・英語は 5p 以上上回った。	・ 1 年生 平均正答率の全国比で社会・理科の知識・技能が+4.5p・+2.9p と差が小さい。 ・ 2 年生 平均正答率の全国比で社会の知識・技能が-2.1p、思考・判断・表現が-1.5 だった。 ・ 3 年生 平均正答率の全国比で理科の知識・技能が-4.6p、思考・判断・表現が-1.5 だった。

(2) 意識調査結果から

成 果	課 題
・ 1 年生 学級の規範意識・生活習慣で全国値を 2p 以上上回った。 ・ 2 年生 対話・話し合いと学級の規範意識で全国値を 2p 以上上回った。 ・ 3 年生 学級の規範意識が全国値を 1.6 上回った。	・ 1 年生 全体的に高いが、標準スコアで社会参画が低いクラスがあった。 ・ 2 年生 標準スコアで、発信力が 47.5 と低い。 ・ 3 年生 標準スコアで、先生のささえが 46.0、家族のささえが 46.7 と低い。

(3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
・昨年に引き続き、漢字、計算、英単語コンテストに向けての家庭学習（ホームワークマラソン）や直前 1 週間の朝学習での反復学習が定着し、令和 7 年度の合格率は、漢字 93%・計算 85%・英単語 89%と高い数値を維持している。 ・令和 8 年度全国学力・学習状況調査で、国語・数学とも全国・都の平均正答率を上回った。英語は全国の平均正答率を上回った。	・コンテストに向けての家庭学習が定着していない生徒が少数いる。 ・令和 8 年度全国学力・学習状況調査の英語で、「音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、話すことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかどうかをみる」が全国平均より低い。

2 本年度の学力向上に関する主な取組

(1) AAR サイクルを通して、生徒の自己調整力を高め、自立した学習者へ育てる。

- ・今年度「墨田区特色ある学校づくり推進校」に認定していただいた。「主体的に学びに向かう生徒の育成 ～AAR サイクルによる学習プロセスを通して～」を研究主題として研究をすすめる。
- ・OECD が提唱した「Anticipation（見通し）」「Action（行動）」「Reflection（振り返り）」の頭文字を取った学習プロセスである AAR サイクルを全教科で取り組む。振り返りで、うまくいった点や良かった点にも注目することで、ポジティブな学びを促す。
- ・上記の学習に生徒の自己調整力を高め、自立した学習者へ育てる。

(2) 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な実現により、確かな学力の定着を図る。

- ・指導教諭の模範授業参観と、その後の校内伝達研修による指導力向上を図る。
- ・授業参観週間での相互授業観察と、相互でのアドバイスを通した指導力向上を図る。
- ・日々の形成的評価、各種学力調査や定期考査の分析により、定着が不十分な生徒や分野を見極め、重点的に支援を行うことにより、DE 層の減少につなげる。
- ・授業の冒頭で本時のめあてを明示し、個での思考→小集団での話し合い→学級での共有→個での再思考のサイクルを働かせ、多様な他者の意見を参考に深い学びの実現を図る。

(3) 補習学習や家庭学習の支援を行い、基礎学力や学び方の定着を図る。

- ・毎週水曜日の放課後学習教室や、試験前の質問教室などの取組を進路学習部が中心になって計画的に実施し、特に学習が苦手な生徒への基礎学力や学び方の定着を図る。
- ・各教科で、「ふりかえりシート」・「問題データベース」・「ミライシート」を活用した授業内・家庭学習課題でのアウトプットを行い、活用方法に習熟させ、生徒自身が家庭学習で活用できる力を伸ばす。

3 「令和 9 年度 墨田区学習状況調査」の目標

- ・墨田区学習状況調査の平均正答率全国比において、同一集団が経年で確実に向上する指導を行う。
- ・個別最適な学びと協働的な学びの一体的な実現を進め、D E 層を減らし、A B 層を増やす指導を行う。
- ・非認知能力、特にメタ認知力を高める指導を行い、学びに向かう力・人間性を伸ばす。
- ・授業中・家庭学習でのアウトプットを徹底し、着実な学力の定着を図る。